スポーツ庁
JAPAN SPORTS AGENCY

令和6年度

地域スポーツクラブ活動体制整備事業

地域スポーツクラブ活動への移行に向けた実証事業

熊本県 山鹿市

自 治 体 名 ： 熊本県山鹿市
担 当 課 名 ： 生涯学習・スポーツ課
電 話 番 号 ： 0968-43-1150

1.自治体の基本情報

スポーツ庁

基本情報

面積	299.69 ㎢
人口	48,136 人
公立中学校数	5 校
公立中学校生徒数	1,250 人
部活動数	53 部活
市区町村の協議会・検討会議等の設置状況	設置済
市区町村の推進計画・ガイドライン等の策定状況	策定に向けて準備中

地域連携・地域移行における市区町村の現状・課題

現在、山鹿市立中学校は５校で、令和６年度の生徒数は、1,250人となっており、平成２６年度と比べ167人（11.8%）の減少となっている。

なお、市内出生数の状況からみると少子化の減少傾向は、今後も続くことが予想される。

また、令和６年度の部活動は、スポーツ系、文化系あわせて53部あり、１、２年生851人のうち、561人（65.9%）が加入しているものの部員数の減少と偏りにより、単一校では大会参加のみならず日々の活動においても成り立たないことから、すでに一部の種目では、複数校による合同部活動が行われている。

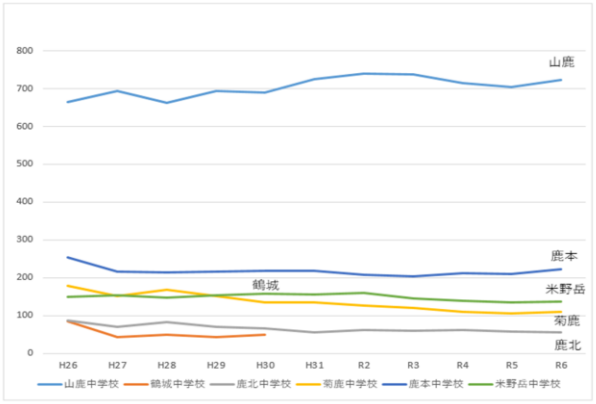
一方、部活動を指導する立場の教職員の観点からは、指導を希望する種目が担当できなかったり、勤務を要しない日の大会引率や指導が求められたりするなど、心身共に大きな負担となっており、加えて、指導への対価は十分に補償されているとは言えず、部活動は教職員のボランティア的労働に支えられている状況である。さらに、一部で実施している合同部活動においては、練習時間や場所の調整、保護者や指導者間の連絡等、環境整備にかかる教職員の負担が増大するという、新たな課題が生じている。

山鹿市立中学校生徒数の推移

	H26	H27	H28	H29	H30	H31	R2	R3	R4	R5	R6
山鹿中学校	665	693	663	693	689	726	740	737	714	705	724
鶴城中学校	84	44	49	44	49						
鹿北中学校	87	71	82	71	67	55	61	60	63	57	56
菊鹿中学校	178	151	168	151	135	136	126	121	109	105	109
鹿本中学校	253	217	215	217	218	218	208	203	213	210	223
米野岳中学校	150	153	148	153	157	156	159	146	140	136	138
合計	1417	1329	1325	1329	1315	1291	1294	1267	1239	1213	1250
前年度比		-88	-4	4	-14	-24	3	-27	-28	-26	37

学級数児童生徒数調　R6.4

山鹿市立中学校生徒数の推移グラフ



2.実証内容と成果

スポーツ庁

運営体制・役割

●運営体制図（市区町村における推進体制図）

山鹿市・山鹿市教育委員会
「地域移行基本方針策定」

提言 ⇕ 意見聴取

検討会議
【構成】 学校関係者（保護者を含む） 10人
スポーツ・文化芸術団体関係者 4人
地域指導者（部活動指導員） 3人
学識経験者 3人
【事務局】生涯学習スポーツ課 3人
文化課 2人
学校教育指導室 2人
部活動地域移行コーディネーター 2人
【検討事項】
・中学校部活動の在り方に関すること
・地域クラブの在り方に関すること
・地域移行基本方針に関すること

事業実施 ⇕ 課題抽出

【山鹿市５中学校】
・合同顧問会議
・合同部活動
（平日、長期休業日）
・試行実施協議

連携 ⇕

【運営主体】
（当面ｺｰﾃﾞｨﾈｰﾀｰが兼ねる）
・運営体制の整備
山鹿市スポーツ協会
山鹿市文化協会

●行政組織内での役割分担

◉教育委員会

・中学校部活動地域移行基本方針の策定（令和６年１２月策定）
・地域移行に向けた合同部活動の拡充実施
・合同部活動実施に伴う、会場の予約及び移動手段に係る予算措置

◉首長部局

・コーディネーター（会計年度職員）配置に係る予算措置

年間の事業スケジュール

令和６年４月	コーディネーターの配置（２人）
令和６年４月	先進地視察
令和６年５月	アンケートの実施、集計・分析（教職員、保護者、児童生徒）
令和６年７～8月	夏季休業中合同部活動の実施
令和６年８月	第1回検討会議
令和６年９月	地域移行基本方針（案）作成
令和６年9～12月	平日合同部活動の実施
令和６年10月	第2回検討会議
令和６年11月	第3回検討会議
令和６年12月	地域移行基本方針策定
令和６年12月	冬季休業中合同部活動の実施
令和７年１月	広報誌（1～5号順次発行）
令和７年１月	令和７年試行実施計画作成
令和７年２月	新一年生（保護者）説明会
令和７年２月	試行実施関係者会議（指導者、保護者）
令和７年２月	運営団体設立検討
令和７年３月	第4回検討会議

2.実証内容と成果

スポーツ庁

地域スポーツクラブ活動の運営実績

①全体に関すること

中学校数	5 校	実施した地域クラブ総数	1 クラブ
ケース別クラブ数	A：部活動を地域移行した形のクラブ数（及び移行された部活動数）		1 クラブ（野球部）
	B：部活動を移行する形態ではない地域クラブ（新たな種目のクラブを新規に創設するケース等）		0 クラブ
全体の指導者数	8 人	全体の運営スタッフ数	2 人

②各クラブに関すること

クラブ名	運営団体種別	種目 ※新規のものは末尾に（新）を付ける	実施回数	実施時間帯	参加者（学年別）	実施期間	活動場所	指導者数	運営スタッフ数（他クラブと兼務）	会費	大会参加方法
野球部	山鹿市教育委員会	野球	週 3 回 （木金土）	（木金） 16:00 ～18:00 （土） 9:00 ～12:00	1年 5人 2年13人	令和６年7月 ～ 令和7年3月	山鹿中学校 山鹿小学校 山鹿市 ｶﾙﾁｬｰｾﾝﾀｰ	8人	2 人 ｺｰﾃﾞｨﾈｰﾀｰ	月会費 0円 年会費 0円	中体連 ：部活動 その他 ：地域クラブ
※令和６年度は地域移行を前提とした合同部活動として実施											

③その他、体験会やイベント等の開催実績

特記事項なし

2.実証内容と成果

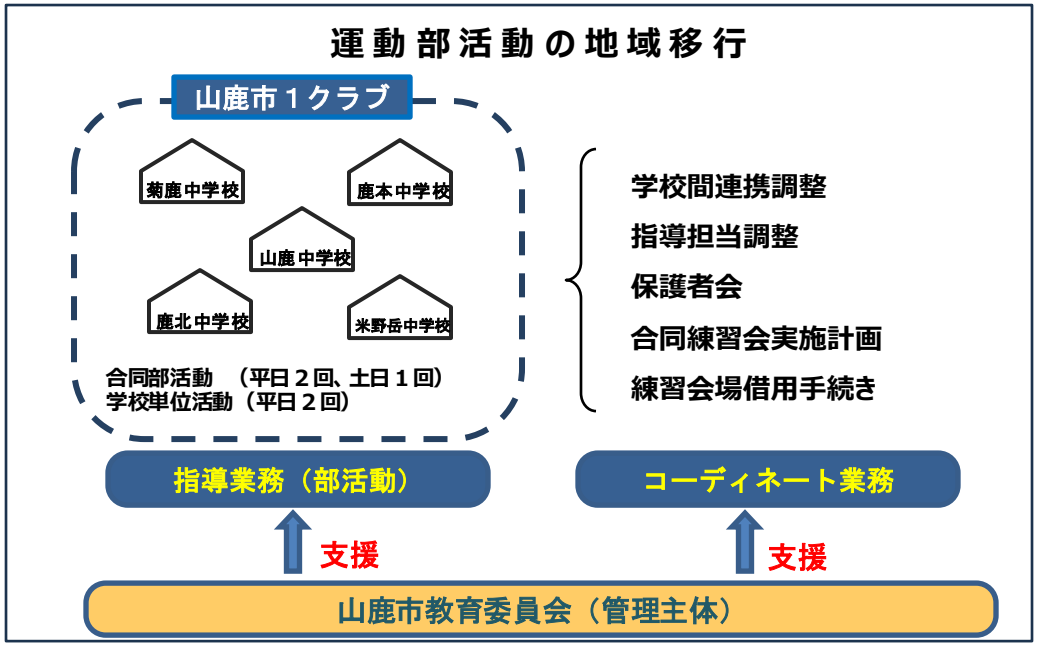
スポーツ庁

主な取組例

●野球部　活動概要

地域クラブ活動で 実施した種目	野球 （地域移行を前提とした合同部活動）
運営団体名	山鹿市教育委員会（ｺｰﾃﾞｨﾈｰﾀｰ）
期間と日数	木、金、土 （月当たり１２回程度）
指導者の主な属性	教職員、部活動指導員
活動場所	山鹿中学校、山鹿小学校 山鹿市カルチャーセンター
主な移動手段	平日：スクールタクシー 休日：保護者送迎
１人あたりの参加会費等（年額）	０円 （令和６年度合同部活動のため）
１人あたりの保険料	800円 （令和7年度はスポーツ安全保険）

●運営体制図（地域クラブ活動を実施する際の運営体制図）



●指導者や運営スタッフなどの役割分担等

●コーディネート業務担当　２名
　役割：練習場所確保、指導者シフト等の調整を行う
●主任指導者　１名
　役割：練習内容及び大会や練習試合等の調整を行う
●指導者　１名
　役割：実質的指導を行う

2.実証内容と成果

ア：関係者との連絡調整・指導助言等の体制や運営団体・実施主体の整備
イ：指導者の質の保障・量の確保
ウ：関係団体・分野との連携強化
エ：面的・広域的な取組
オ：内容の充実
カ：参加費用負担の支援等
キ：学校施設の活用等
ク：その他の取組

スポーツ庁

取組内容

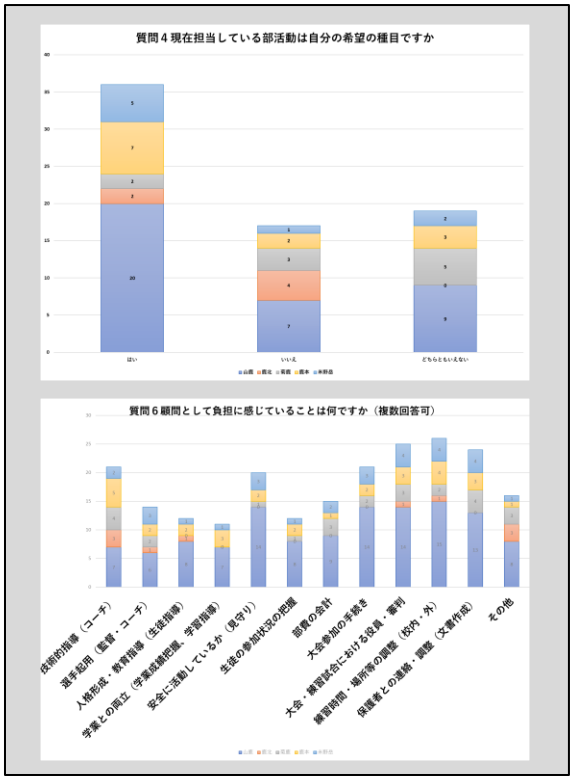
●取組項目名　ア：関係者との連絡調整・指導助言等の体制や運営団体・実施主体の整備

取組事項

・コーディネーターの配置
・アンケートの実施、集計分析
・合同部活動の拡充実施
　①長期休業中合同部活動
　②平日の合同部活動
　※顧問会議の実施
・検討会議の実施
・関係団体ヒアリング
・令和７年試行実施計画作成及び関係者会議
・新一年生保護者説明会及び広報誌発行

取組の成果

・アンケートの実施（市内中学校教職員・小学校５、６年生及び保護者・中学校生徒及び保護者を対象）
　教職員のうち、50%は学校の事情等から専門性のない種目を担当していた。負担感は「練習時間場所の調整」「試合の役員・審判」「保護者との連絡調整」が30%以上で、技術指導や生徒指導といった生徒とのかかわりに負担を感じているものは比較的少なかった。
　地域移行後も、約50%の教職員「指導にかかわりたい（条件や希望がかなえば）」と答え、地域移行後の指導者として期待できる。
・合同部活動
　今年度から長期休業中の合同部活動を試行的に全種目で実施した。球技種目の合同練習は良い雰囲気でできたが、個人種目では学校単位で別の活動をするなど課題が見られた。
　文化面でも吹奏楽部が３校が合同で活動しコンクールに出場した。
・検討会議において意見を聴取し基本計画を策定した。



コーディネーターの具体的な動きの実績

・アンケートの実施、集計・分析
・合同部活動の企画、顧問会議、施設調整及び移動手段調整
・検討会議の企画・運営及び資料作成
・「地域移行基本方針」の策定
・運営団体（NPO法人）設立基本構想

今後の課題と対応方針

・合同部活動を地域移行するためのモデル事業（野球部）を令和7年4月から実施する。競技団体、中体連、学校、それに保護者会を交え円滑な地域クラブへの移行について課題とその対応を整理する。
・スポーツ協会・文化協会と協議し、NPO法人として総合的な運営団体の設立を目指す。

2.実証内容と成果

ア：関係者との連絡調整・指導助言等の体制や運営団体・実施主体の整備
イ：指導者の質の保障・量の確保
ウ：関係団体・分野との連携強化
エ：面的・広域的な取組
オ：内容の充実
カ：参加費用負担の支援等
キ：学校施設の活用等
ク：その他の取組

スポーツ庁

取組内容

●取組項目名　オ：内容の充実①

取組事項

【合同部活動】

・夏季休業中、冬季休業中に市内５校による合同部活動を実施。スクールバス（タクシー）を運用し、在籍校から練習会場に移動させた。

・平日の合同部活動は、９月以降チーム登録上人数の揃わない部活動において、学校間で協議の上、平日週２回及び休日１日合同練習の上、合同チームとして大会に参加した。

【運営団体設立】

・コーディネーター配置（４月）

・山鹿市スポーツ協会との協議

・山鹿市文化協会との協議

・運営主体設立（案）作成

活動の詳細

参加人数	324 人	指導者数	43 人
属性	学校連携型合同部活動		
具体的な内容	＜夏季休業中＞ 野球（11回）、サッカー（17回）、ハンド女子（16回）、バスケ女子（3回）、弓道（1回） バレー男子（5回）、バレー女子（4回）、卓球（4回）、剣道（1回）、柔道（6回） ソフトテニス（1回） ＜冬季休業中＞ 陸上（1回）、吹奏楽（2回）、バレー女子（3回） ＜９月以降平日（週2回）、休日（週1回）＞ サッカー（2校）、野球（5校）、バレー男子（2校）、バレー女子（2校、2チーム） 吹奏楽（3校）、バスケ女子（2校）、ハンド女子（2校）		
子供の声	● 多くの仲間と練習ができ楽しかった（卓球） ● チームで練習試合ができたのが嬉しい（野球） ● 専門の指導者に教えてもらい充実した練習ができた（陸上・駅伝） ● 人数が多い中での練習は楽しく有意義だった（バレー女子） ● 小学生も参加し大人数での練習は充実した（剣道）		
関係者の声	● 合同練習を契機に、合同チームを編成し団体戦への出場をさせたい（卓球・指導者） ● 他校の保護者とも情報交換ができ有意義な練習会となった（バレー女子・保護者） ● ３校合同でコンクールにできるようになり子供たちも喜んでいる（吹奏楽・保護者） ● ５校合同部活動が始まり、新たな部員が加入した（野球・指導者） ● 個人競技で、大会の対戦相手となるため、合同練習はなじまなかった（ソフトテニス・指導者） ● 合同練習会を契機に、早期に山鹿市１クラブに移行してほしい（剣道・指導者）		
運営経費	各学校の部活動費の範囲内		

2.実証内容と成果①

スポーツ庁

総括・成果の評価・今後に向けて

●総括

〇部活動地域移行検討会議を実施し、「山鹿市中学校部活動地域移行基本方針」を策定した。この方針をもとに中学校向け広報誌（通信）を５回発行、新１年生向け説明会等、内容の周知に努め理解を得ることができた。

〇部活動地域移行コーディネーターの企画・調整のもと、学校連携型合同部活動は順調に進み、令和７年度試行実施（野球）の体制も整った。合同部活動については、生徒・保護者をはじめ指導者（教職員）も概ね高評価であった。

〇諸会議等においてスポーツ系の部活動が先行していることから、文化系の活動の意向を危惧する声があった。当市においては検討会議の委員の半数は文化面に携わる方を委嘱し幅広く意見を取り入れたり、吹奏楽部の合同部活動が始まるなど、文化系の活動も推進させることができている。

〇運営主体について、組織体制の位置づけについて様々な意見があり調整段階である。スポーツ及び文化面を支える総合的な体制を模索している。

●成果の評価

〇学校連携型合同では概ね順調に進んでいる。一方で個人種目を基本とする部活動では合同練習に壁がある。その中で陸上（駅伝）の指導者同士が連携して定期的な練習会をする動きもあるなど、地域で一体として活動する機運は高まっている。

〇教職員へのアンケート調査で条件付きではあるが約半数の教職員が「地域移行後の部活動の指導にかかわってもよい」と答えている。

〇当市では吹奏楽や太鼓など文化芸術面の活動も盛んであり、複数校合同の活動や地域指導者のかかわりなど支援体制が整いつつある。

●今後に向けて

〇山鹿市中学校部活動地域移行推進計画の策定

〇試行実施（野球）で生じる課題に対応し、可能な種目から試行実施の拡充を図るとともに、学校連携型合同部活動の拡充を進める。

〇指導者について教職員の希望調査を改めて募る。併せて、スポーツ協会、文化協会と連携し指導者の確保を目指す。

〇平日の地域移行に向け、移動手段、学校日課等の課題に対し、財政支援を含め検討する。

〇運営主体となる団体の組織体制を早期に決定し、人的支援を含め市の支援を検討する。並行して運営主体となる団体の事務業務を整理し、円滑な移行を進める体制を作る。

2.実証内容と成果②

スポーツ庁

アンケート結果

●アンケート結果（抜粋）

教職員向けアンケート

質問4 現在担当している部活動は自分の希望の種目ですか	全体	（構成比）
はい	36	50.00%
いいえ	17	23.61%
どちらともいえない	19	26.39%
計	72	100.00%

質問6 顧問として負担に感じていることは何ですか（複数回答可）	全体	（構成比）
練習時間・場所等の調整（校内・外）	26	35.62%
大会・練習試合における役員・審判	25	34.25%
保護者との連絡・調整（文書作成）	24	32.88%
技術的指導（コーチ）	21	28.77%
大会参加の手続き	21	28.77%
安全に活動しているか（見守り）	20	27.40%
部費の会計	15	20.55%
選手起用（監督・コーチ）	14	19.18%
人格形成・教育指導（生徒指導）	12	16.44%
生徒の参加状況の把握	12	16.44%
学業との両立（学業成績把握、学習指導）	11	15.07%
その他	16	21.92%
計	217	297.26%

質問7 地域移行後も部活動の指導にかかわりたいと思いますか	全体	（構成比）
積極的にかかわりたい（指導、コーチ）	6	7.59%
担当種目の希望が叶えばかかわりたい	11	13.92%
条件（服務や報酬等）が整えばかかわりたい	21	26.58%
見守り的指導であればかかわりたい	6	7.59%
かかわりたくない（学校業務に専念したい）	35	44.30%
計	79	100.00%

生徒向けアンケート

（小、中共通） 部活動でどのような力を身につけたいと思いますか （複数回答・3つまで可）	小学校		中学校	
	（N）	（%）	（N）	（%）
県大会や全国大会で活躍できる競技力	80	24.6%	72	25.8%
様々なことに挑戦する力	131	40.3%	108	38.7%
最後まであきらめない精神力	169	52.0%	136	48.7%
仲間と支えあい・助け合う心	158	48.6%	169	60.6%
仲間と理解しあえるコミュニケーション力	68	20.9%	93	33.3%
高校進学への実績	23	7.1%	35	12.5%
高校以降の競技のための基礎体力・基本技能	28	8.6%	20	7.2%
その他	5	1.5%	11	3.9%
計	325		279	

保護者向けアンケート

（小、中共通） 地域移行後の部活動にどのような期待をお持ちですか （複数回答・2つまで可）	小学校		中学校	
	（N）	（%）	（N）	（%）
競技力をより高める活動	91	20.2%	96	24.9%
これまでの学校部活動の良さを継承する活動	120	26.6%	124	32.1%
学業との両立ができる活動	210	46.6%	187	48.4%
人間性・人格形成を第一とする活動	203	45.0%	155	40.2%
あくまでも教育の一環としての活動	75	16.6%	54	14.0%
高校選択（進学）につながる活動	48	10.6%	36	9.3%
その他	8	1.8%	6	1.6%
計	451		386	

（小、中共通） 地域移行後の部活動の指導者（教職員、公務員、地域指導者）が報酬を受けることをどう思われますか（複数回答可）	小学校		中学校	
	（N）	（%）	（N）	（%）
職業を問わず報酬を受けるのは当然だと思う	388	86.0%	341	88.3%
交通費等経費はよいが、報酬は不要だと思う	30	6.7%	26	6.7%
ボランティアであり、報酬・経費は不要だと思う	14	3.1%	4	1.0%
教職員に報酬は不要だと思う	20	4.4%	11	2.8%
公務員に報酬は不要だと思う	21	4.7%	8	2.1%
地域指導者に報酬は不要だと思う	5	1.1%	1	0.3%
その他	9	2.0%	8	2.1%
計	451		386	

2.実証内容と成果③

スポーツ庁

広報資料・参加者の声

●中学校部活動基本方針策定（令和６年１２月）をうけ、教育委員会から市内中学校長への説明、校長から教職員への説明、教育委員会から中学校新入生への説明を実施。

●保護者向けに広報誌（第1号から第5号）を１月から２月にかけて順次発行し、学校を通じメールにて配信（資料添付）

中学校部活動地域移行通信　第１号　令和７年１月７日

今回のテーマ　～「地域移行」とは？～　発行：山鹿市教育委員会

1　はじめに

学校教育の一環として行われてきた中学校の部活動は、生徒同士や教師等と豊かな人間関係の構築を図ったり、自己肯定感を高めたり、責任感や連帯感を身につけるなど、学校という環境における生徒の自主的で多様な学びの場として、その教育的意義が高い活動です。

近年は、少子化が進展する中、以前と同様の体制で運営することが、学校や種目によっては難しく、生徒が希望する部活動に参加できない学校もあります。

また、部活動指導の中心であった先生方の多忙化や専門的知識のない競技指導への不安も大きな課題と言えます。

そこで、山鹿市では国や熊本県の示す「中学校における部活動の地域移行に関する指針や計画」に沿って、学校と地域の連携・協働により、新たな中学校部活動の在り方を見据え、持続可能なクラブ活動環境づくりを検討しています。

この通信を通して、「中学校部活動地域移行」について理解や関心を持っていただくよう、５回にわたり発行していきます。

2　「部活動地域移行」とは？

これまでの部活動は、主に先生方の指導のもと、学校単位で部を編成し、学校の施設を中心に活動してきました。「地域移行」では、学校の枠を越えて**地域でクラブを編成し**、学校施設だけでなく公共施設などの身近な施設も利用し、**指導者も、これまで以上に地域の方々に参加いただく仕組み**を整えていきます。

国や熊本県は、平日は学校での部活動を実施し、まずは休日を「地域移行」していくことを推進しています。「部活動地域移行」は、「部活動を学校から切り離す」というイメージがありますが、学校を含めた**地域ぐるみの部活動**です。

「地域の子供たちは、学校を含めた地域で育てる」

次ページに続く

山鹿市中学校部活動地域移行（イメージ）

○なぜ地域移行が必要か？

・現在の課題

少子化によって部活動が成り立たない
- 大会に参加できない
- 練習ができない
- 学校にやりたい部活動がない

教職員の負担軽減
- 平日や休日の長時間勤務
- 未経験で指導しなければならない負担

地域移行後の受け皿となる団体の不在
- 都市部のような民間スポーツクラブが充実していない

・今後の方向性

～ 生徒がスポーツ及び文化・芸術活動に継続かつ専門的に親しむことができる環境を確保 ～

学校と連携し地域全体で部活動を支援し、生徒を育んでいく

○地域移行でどう変わるのか？

	現在の部活動	地域移行後
指導者	主に学校の教職員	地域指導者（教職員を含む）
活動場所	各中学校	学校施設、地域の公共スポーツ・文化施設等
運営主体	各中学校	行政、NPO 法人、既存組織等（未定）
参加種目	在籍校にある部活動	山鹿市の学校部活動種目を引き継ぐ
経費	PTA 会費、保護者会費	年会費・月謝、保護者会費

※次回は、「山鹿市における中学校部活動の現状」についてお知らせします。

この通信に関する問い合わせ先は、

山鹿市教育委員会生涯学習・スポーツ課です。

ＴＥＬ　４３－１１５０

【保護者・生徒への部活動地域移行広報１号】

●参加者の声

１・２年生徒・保護者（野球部）

・他校生徒とコミュケーションがとれる。新しい友達ができた。

・人数が多いことにより、様々な練習が今後期待できる。

・指導者の説明がわかりやすい。

・子供たち同士でよい刺激を受けている。

・現在は基本中の基本の練習がメインであるため、レベルの高いところの練習もやってみたい。

指導者（女子バレーボール）

地域移行ｺｰﾃﾞｨﾈｰﾀｰのお世話により、12月25日（水）から始まった３日間の山鹿市内中学校女子バレーボール部全チームでの合同練習も今日で最終日となりました。普段とは異なる環境、違うメンバーの中でありますが、体育館には真剣にボールを追いかける子どもたちの姿がありました。自分のチームとは異なるチームの生徒がいるのはもちろんですが、指導や球出しをする指導者側も複数人体制です。全体の人数が多く、とても賑やかで、充実した３日間となりました。これからも同じ山鹿市でバレーボールを行う仲間として、切磋琢磨しながら、そして、お互い学びながら、みんなでバレーボールを盛り上げていきたいと思います。

2.実証内容と成果④

スポーツ庁

参考資料（活動写真）



【卓球部合同練習】



【吹奏楽コンクール（合同部活動参加】



【バレーボール女子合同練習】



【野球部（ナイター練習）】

2.実証内容と成果

スポーツ庁

地域スポーツクラブ活動の実施に至るまでの合意形成プロセス

令和６年		令和７年		令和８年	令和９年
検討会議設置 基本方針策定 広報活動	合同部活動推進 学校間調整	推進会議設置 推進計画策定 運営団体の決定	試行実施 （モデル事業） 合同部活動拡充	運営事務局開所 試行実施拡充	完全移行 （休日部活動）

●ステークホルダー

試行実施種目保護者会

●経過

学校連携型合同部活動を地域移行に進める過程で、保護者会の一元化に取り組む。

●実施にあたって生じた課題

保護者会費の会計の在り方、残額等が学校により相違があり、簡単に一元化ができない。

●実施内容、工夫した点 等

・保護者、顧問に聞き取り調査
・顧問会議、保護者会で協議
・保護者会費の決定

●ステークホルダー

運営主体（外郭団体）

●経過

スポーツ協会に地域移行の運営主体を担ってもらうよう調整を図る。

●実施にあたって生じた課題

文化系の部活動の扱いについてスポーツ協会が担うことへの疑義が生じた。

●実施内容、工夫した点 等

・山鹿市スポーツ協会を法人化し、運営事務を担う団体を目指す。

●ステークホルダー

スクールバス（平日の移動手段）

●経過

合同部活動実施にあってはスクールバス（スクールタクシー）で１か所に集まっている

●実施にあたって生じた課題

地域移行後は学校管理下でないのでスクールバス利用規定に相当しない可能性がある。新たにバス契約となれば多額の経費負担となる。

●実施内容、工夫した点 等

・令和７年度以降の検討課題とする。

3.今後の方向性

スポーツ庁

地域連携・地域移行の推進に向けたロードマップ

令和６年度	令和７～８年度	令和９年度以降
・一部合同部活動 ・長期休業中合同部活動 ・アンケート実施 ・部活動地域移行基本方針の策定 ・部活動地域移行推進計画の着手	・地域移行モデル試行 ・一部合同部活動 ・長期休業中合同部活動 ※条件が整った種目から地域移行へ ・部活動地域移行推進計画の策定 ・運営主体の検討・設立	・休日部活動をすべて地域移行 ・平日部活動についても地域移行を進める